

図書館の

長岡市立中央図書館報 No.161

2018★夏号

～平成30年は図書館開館100周年

あなたのそばにいつも図書館～

窓から

おすすめ図書紹介 「**図書館**」

祝・長岡市立図書館100周年!

今回は、さまざまに図書館の魅力を伝える本をご紹介します。

『世界の夢の図書館 37

Wonderful Libraries
around the World』

エクスナレッジ



図書館という建物について考えたことはありますか?この本で紹介されている図書館はまるで映画の世界から飛び出してきたような美しさで、きっと訪れてみたいと思うはず。

建物という視点から、図書館の持つ深い歴史とこれからの大きな可能性が感じられる一冊です。

『れんげ野原の まんなかで』

森谷 明子／著
東京創元社



この小説の舞台は、人気のない場所に建つ利用者も疎らなある図書館。数日前から子どもたちが閉館後も隠れて残ろうとする姿が見られます。原因は図書館に関する妙な噂が広まっていたことにありました。その後もたびたび舞いこんでくる謎。司書はその謎を解決できるのでしょうか。



『本バスめぐりん。』

大崎 梢／著
東京創元社



3千冊の本を乗せて市内を巡るバス「めぐりん」。大事なものを本に挟んだまま返してしまったという訴えを聞いて、搜索に乗り出す司書ウメちゃんと新人運転手テルさん。本と人、人と人が出会い、そして生まれた謎も一緒にのせて、図書館バスがハートフルミステリーを届けます。

『ぼくは、やっぱり図書館がすき

漆原宏写真集』

漆原 宏／著
日本図書館協会



図書館写真家である漆原宏さんの写真集。

1980年から2000年初期の図書館の一風景を集めたものです。モノクロの向こうの人はみんな笑顔だったり、真剣だったり。

図書館の楽しさが伝わってくるどこか懐かしい写真がいっぱいです。



図書館の思い出



平成30年は、長岡市に互尊文庫が開館して100年目にあたります。それを記念して昨年末から今年初めにかけて利用者の方に「図書館の思い出」を募集し、4月に一冊にまとめた文集を発行しました。この文集の中から各世代より3名の方の「図書館の思い出」をご紹介します。

あけき よしい
明喜 良伊 さん

88歳 無職

長岡市表町

空襲で焼け出されて疎開先の来迎時駅より通学していた私は、あの頃の信越線の発車本数が少ないため時間調整を兼ねて今のアオーレの場所で焼け落ちなかった大きな土蔵の中で開館していた文庫に毎日立寄ったものでした。当時は活字に飢えた人々が大勢で食べるように読書していました。三年後実家が呉服町に再建され近くの互尊文庫に足繁く通いました。当時は、はがき大のカードに本の番号と貸借の日付を記入して管理されていた。

ある時一日返納する日を忘れたため延滞料五円徴収された時は本当に口惜しかった。当時は大変厳しかったものですね。その頃は貸してやるという態度の事務員がおりましたが、昨今はよく教育されたスタッフの皆さんが気持ちの良い接客態度で対応して下され大変好印象を受けていますが残念ながら笑顔が見られないのがさみしい。今八十八才の私、これから先何年ご厄介になることができるのか今から思案しているところです。

かなざわ ひでお
金澤 秀雄 さん

50歳 うどん職人 長岡市川崎

図書館は不思議な空間である。休日によく利用するのだが、急に行きたくなるとワクワクするのである。読みたい本を探しに出かけることもあるし、目的もなく立ち寄ることもある。いつ来ても人がたくさんいるが、静かなところがいい。BGMも心地いい。私は小さな頃は本を読まない子どもであった。漢字はよく覚えられたので、読書の習慣を身につければ、成績が向上すると担任の先生から言われたものだった。成人してから本を読むようになった。書店にもよく足を運ぶのだが、落ちついて本を読めるのが図書館の長所である。様々なジャンルの図書が網羅されているので心が豊かになる場である。現代はスマホに接する時間が長く、本を読まない人も多いと聞いている。一冊の本との出会いが、人生に大きな影響を与えることがある。私はその1人である。これからも図書館を最大限利用してゆきたいし、多くの人に足を運んで、豊かな時間を享受していただきたいと思う。

たかはし かなと
高橋 要翔 さん

14歳 中学生

長岡市大島本町

私は、いつも学校のテスト期間中になると、西地域図書館に来ます。理由は、本に囲まれているととても落ち着き集中できるからです。私は、数学が苦手なのですが西地域図書館に来ると数学ワークの難しいところが簡単に分かります。それは、きっと私だけではないと思います。人々は、難しいことや分からないことがあると図書館に来て、帰る頃には解決して帰っていく。図書館は、本当にすごい力を秘めていると思います。私は、本を読むことはもともとあまり好きではありませんが西地域図書館に来て本を読むとなぜか見入ってしまいます。

私は、長岡市の多くの人々が毎日のようにおとずれるこの西地域図書館を大切にして、これからも困ったことがあれば、立ち寄りたと思います。

西地域図書館がここ長岡市にあることを誇りに思います。

平成30年6月8日、長岡市立図書館は100年の節目を迎え記念式典を行いました。式典にはご来賓や図書館関係者など約120名の方からご出席をいただき、河井継之助記念館館長稲川明雄氏より「互尊翁と互尊文庫」についてのご講話をいただきました。また、映像により100年の歴史を振り返りながら、現在の図書館の活動を紹介します、とても和やかな式典となりました。

開館記念日の8日から10日までの3日間は、市内全図書館において「としょかんまつり」を開催しました。中央図書館は絵本の読み聞かせや映画会、えんにちコーナーなど様々なイベントを実施しましたが、開催中の所蔵資料展「江戸時代の長岡」と併せ、大変多くの方々からご来館いただき、図書館の魅力を発信できた3日間でした。

ここで、改めて互尊翁と互尊文庫についてご紹介したいと思います。野本恭八郎（互尊翁）は小国地域の豪農山口家に生まれ、20歳の頃に長岡の商人野本家に養子に入りました。自分を大切にし他人を尊ぶという考え方である「互尊独尊」思想を自ら提唱され、独尊を養うには読書が大切であり、

そこから博識を得て互尊の道に入るとし、「図書館こそが生涯教育の中心であり、自己を研鑽し、社会に奉仕できる人間を造る場である」と考え、図書館建設と運営の資金を長岡市に寄付したのです。市は、これを受けて三島億二郎の邸宅跡地であった現在の長岡グランドホテル付近の土地を購入して図書館を建設し、図書館の名称は「互尊文庫」とすることとしました。

互尊翁は多くの書を残しています。

「一にも人、二にも人、三にも人」

人づくりが大切であるという互尊翁の思いが端的に表れています。

また、互尊翁は次の標語を互尊文庫に掲げました。

- 一、図書館をもって我が宝と仰ぎ、人生の記念たる思想の博覧会と知れ
- 一、図書館をもって我が宝と仰ぎ、世に立つ活人中心の自発機関と知れ
- 一、図書館をもって我が宝と仰ぎ、活新味の読書と研究の社会道場と知れ

長岡の図書館に息づく「人づくり」の理念を引き継ぎ、100年先の未来へ続く、皆さまに愛される図書館づくりに努めてまいります。（山田あゆみ）

中央図書館所蔵資料紹介 No.157 山本帯刀 画賛「富士」



山本帯刀（1845～68）（名・義路、号・竹塘）は、弘化2年長岡藩士安田渡と弓の子として生まれました。文武両道にすぐれ、代々長岡藩の家老をつとめる山本家へ養子に入ったのち、12代の家督を継ぎます。

慶応4年（1868）の北越戊辰戦争では、軍事総督河井継之助のもと、大隊長として各地で奮戦するも長岡城は陥落。その後、八十里越を経て会津で防戦し、9月8日の飯寺の戦いにおいて敵に捕らわれ、翌日処刑されました。この時まだ24歳という若さでした。

画幅の賛は、慣れた筆運びによる「接天絶頂氷無解 ^{さんぶく}三伏之時猶若冬」。読みは「天に接する絶頂、氷の解くこと無し、三伏の時もお冬^{こと}の若し」です。三伏の時とは激しい暑さのこと。つまり、下界は酷暑のさなかであっても、山の頂きは氷が解けず、まるで冬のような、とうたいます。

そこには、日本一高い標高を持つことが示されているだけでなく、山岳信仰のメッカである霊峰富士に対して、帯刀が抱いた尊敬や畏れの念まで表されているようです。

今年は帯刀が戦死してから150年という巡りあわせの時。今に伝わる資料が少ないなかで、貴重な一幅となります。（小熊よしみ）

7月～9月 イベント



平成 30 年は図書館開館 100 周年
あなたのそばにいつも図書館

第2弾

開館100周年記念事業

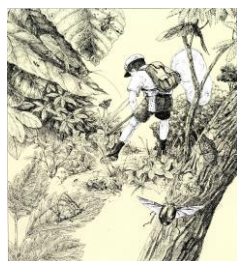
「画業 50 年 長岡の自然に育まれた松岡達英」展



川口地域のアトリエにて 写真：長谷部 薫

会期：7/20(金)～8/5(日) 10:00～18:00
※ 休展日 7/23(月)

場所：中央図書館 2階美術センター **入場無料**



『父さんの小さかったとき』
1998年(福音館書店より)



「だんご博士の観察記」
2002～2004年(新潟日報連載より)

==== 関連行事 =====

○オープニングセレモニー

日時：7/20(金) 14:00～
内容：開場式後、松岡達英さんによるギャラリートークを行います。

○サイン会

日時：7/22(日) 13:00～14:00
場所：講座室1(※当日、会場でご購入の本に限らせていただきます。)

○クロージングギャラリートーク

日時：8/5(日) 14:00～
内容：展覧会最終日に、松岡達英さんによるギャラリートークを行います。

○関連本コーナー

会期中、長岡市立図書館全館とまちなか絵本館に、松岡達英さん関連本コーナーを設置し、展示貸出をします。

<映画会> ◎入場無料・申込不要 2階講堂



※7/22の「夏休み映画会」、8/11の「山の日映画会」、8/15の「平和を考える映画会」は“2本立て(午前・午後)”です!!

<夏休み映画会>

7/22(日) 「はらぺこあおむし」 10:00 上映
1996年/イギリス(33分)

7/22(日) 「ピッケと神々の秘宝」 14:00 上映
2011年/ドイツ(96分)

<山の日映画会>

8/11(土祝) 「K2～初登頂の真実～」 10:00 上映
2015年/イタリア(120分)

8/11(土祝) 「フレンチアルプスで起きたこと」
14:00 上映
2014年/スウェーデン・デンマーク他(118分)

<平和を考える映画会>

8/15(水) 「エス・エール」 10:00 上映
1983年/スペイン・フランス(95分)

8/15(水) 「哀愁」 14:00 上映
1940年/アメリカ(108分)

9/4(火) 「私の、息子」 14:00 上映
2013年/ルーマニア(112分)

9/24(月祝) 「死にゆく妻との旅路」 14:00 上映
2011年/日本(113分)

※上映30分前から開場



「絵本のたのしみ」

～読み聞かせボランティア養成講座～

- ◆日時：9/22(土) 10:00～12:30
- ◆対象：読み聞かせボランティアおよびブックスタートボランティア(経験は問いません)
- ◆講師：伊藤 美智子さん(野いちご文庫スタッフ)
- ◆会場：中央図書館2階 講座室1
- ◆定員：30人(先着)
- ◆申込：9/11(火)から
☆中央図書館窓口・電話で受付☆



長岡市子ども読書活動推進計画

～ずっとわたらに本のある暮らしを～



平成30年7月1日 長岡市立中央図書館 編集・発行
長岡市学校町1-2-2 TEL 0258-32-0658
mail: lib@city.nagaoka.niigata.jp